

みなみかぜだより 令和6年秋号

ちゅーりっぷ・ゆり通り：すももよ、君はいったい何になるんだい？

6月初旬、利用者様に「季節もので何が食べたいですか？」と尋ねたところ、「外に美味しそうなすももがなっているから食べてみたいねえ」とリクエストがあり、1週間ごとに大きさ・味のチェックを職員数名で行っていましたが、なかなか良い塩梅にならず。利用者様からも「そろそろよかねどかい？」「雨が降ったら落ちっど」と急かされ、よし明日収穫に行こうと楽しみに出勤してみると、夜の強風で実がほとんど落ちており、どうしようかと途方に暮れていると、偶然実家で貰ったという職員がおり何とかそちらのすももを使うことができました。本当はシロップ漬けにしたかったのですが、なんのかわりでレシピはジャム一択となりました。

ジャムにするため、熟年のピーラーマスターがちゅーりっぷ通りに集まり、すももの皮むきを開始。ピーラーや包丁、そして手やテーブルも真っ赤に染まり、一言で表すならホラー映画のワンシーンのようでした。マスター達の頑張りもあって絵画は少し・・・いや大分アレでしたが、美味しいジャムが出来上がり、3時のおやつでヨーグルトにかけて美味しく頂きました。



看護係：まだまだコロナは恐ろしい

R5年5月から新型コロナウイルスが5類感染症へ移行したことによって経済活動が緩和されました。しかし5類感染症になったからと言って新型コロナウイルスの感染力自体が弱くなったわけではありません。

今年の夏、鹿児島は感染者数が全国で第一位になりました。コロナ第11波が続いているというニュースも耳にします。

当施設では毎日入所者様の健康観察を行い、マスク装着、手洗い、手指消毒、換気を心掛け感染予防に努めています。高齢者にとっては命を落とすかもしれない恐ろしいウイルスです。マスク装着困難や拒否などがあり感染予防徹底の難しさがありますが感染拡大につながらないよう日々努力していきたいと思います。

